

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592200105		
法人名	株式会社Beスマイル		
事業所名	グループホームBeスマイル新旭		
所在地	滋賀県高島市新旭町安井川1丁目12-1		
自己評価作成日	平成28年6月1日	評価結果市町村受理日	平成28年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポンアクティブライフクラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂店 2階		
訪問調査日	平成28年6月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地が約400坪あり、その中に畑や外でくつろげるスペースが確保されているなどゆったりとして開放感のある事業所です。また建物も開設して5年と新しく、利用者が日中過ごすリビングは、吹き抜けになっているなど開放感があり、ゆったりと生活して頂ける空間を設けた事業所です。その中で職員は、誰にでも笑顔で、又、利用者・家族にも不安を持たれないよう誠意を持って接している。最近では、利用者の入退院や体調の変化等から、重度化による身体介護の難しさ、体調管理の難しさを日々感じ、職員がその人らしさを探しながら、利用者にとって、安心感をもってもらえる居場所となるよう仕事に工夫と努力を重ねている。再訪される様、過ごし易い空間・雰囲気作りにも努め、また季節感を味わって頂ける様、ホーム内のディスプレイにも工夫をし、戸外にも全員が出掛けられる様な支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近い新興住宅地に立地してる広い敷地を持つ事業所である。近江商人の「三方よし」の精神から利用者・家族、地域、事業所スタッフの三方が笑顔溢れるように「スマイル スマイル スマイル」の理念を掲げている。勤務して日の浅い職員をはじめ職員は理念を良く理解しており、日々笑顔を絶えず事無く利用者・家族、地域住民と接している。職員は利用者の重度化の進行に伴う外出の不足、増えて来る看取り介護等の課題解決に努め、各種研修の受講や自らの提案で業務改善に取り組む等、重度化した利用者と向き合い、その人らしい支援が出来るよう支援している。運営推進会議では地域との更なる交流促進、防災組織の構築に真摯な議論が交わされている。利用者は居心地の良い居間でおしゃべりやテレビを見るなど思い思いに穏かに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念を理解して、利用者や家族、地域の人等に対して、笑顔で丁寧に対応している。	理念は玄関、リビングに掲示している。職員は日々の介護現場で理解に努め、共有して実践している。職員の笑顔は利用者、地域住民の笑顔を引き出し、自らも成長している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の近くの方が働いて頂いているので、地域の情報や風習を教えて頂いる。有志の方で花壇や外回りの掃除を手伝ってもらっている。地域のイベントに参加することが増えている。	自治会に加入し、運営推進会議でも交流促進に向けて話し合っている。小学生ボランティアとの折り紙、人形劇での交流や自治会行事の七夕祭り、バーベキュー、ふれあいサロン等にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや小中学生の福祉職場体験の受入を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催の中で、日頃の活動内容を報告したり、課題を相談させて頂き、家族や地域・行政からアドバイスを頂いている。議事録の作成に取組み職員間で共有を図っている。	2ヶ月毎に利用者・家族・行政・自治会長・管理者・書記の構成で開催している。外部評価調査の結果を受け、地域防災計画の構築や重度化が進む中での外出、看取り等の課題について活発に議論している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業主・管理者が事業所の状況を随時伝え、協力関係を築いている。事業主が、介護サービス事業者協議会の会長を務めているので、各種会議等の出席を含め協力関係を築いている。	長寿介護課には法人代表が協議会運営の件や介護保険関連等で訪問している。徘徊者検索ネットワークにも協力している。介護タクシーや訪問入浴等日々のケアに係る相談は管理者が電話で対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、基本的な事は理解している。日中は、常時開放しているが、職員の少ない時等やむを得ない時には、安全性を考え一時的に施錠する時もある。	職員は研修の受講や管理者の指導で身体拘束をしないケアの理解を深め実践している。玄関の出入りはリビングに設置しているテレビモニターで見守っている。徘徊時は職員の搜索の他、地域組織が防災無線を使用して搜索する体制が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、ミーティング等で再確認して日々のケアの中で常に虐待に値するか？を問い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中で、成年後見制度を利用している方がおられる。社内で折に触れ理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時には、特に契約解除の要件については、入院したら即契約解除等といった事はない等、利用者が不利益にならない事を伝え、安心して契約を結んで頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や通院介助時に、家族の方と会話をし、意見や要望を聞いて、その事を職員と共有しながら、利用者の対応に生かしている。	家族会は無く、面会時や通院介助時、運営推進会議で意見を聞いている。得られた情報は業務日報等に記載、共有してサービスに反映している。家族向けの駐車スペース1台分を確保した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議だけに留まらず、常日頃や特に問題が起こった時は、職員の気づきやアイデアを聞き出し参考にしながら、運営するように心がけている。	毎月1回、非番の職員も参加してのスタッフ会議や日常のケア現場で意見を聴取している。半期に1回、管理者が行う人事面談でも提案を受けている。職員の負担減に繋がる提案があり現在マニュアルを作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員夫々の状況に応じて勤務体制を組み、外部研修等を取り入れ、勤務を継続できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務マニュアルの作成している。研修後、復命書を作成し、回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携の事業に参加し、視察や研修に参加している。また、市内の同業者との会議が定期的であり、情報交換等を通じて連携が深まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、サービスの開始を受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞かせて頂くようにしている。話を聞くことで、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によってはケアマネジャーや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。支援する側される側との意識を持たず、協働しながら和やかな生活が送れるように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の会う機会を持つ為にも、定期受診や季節の衣類の入れ替え等、家族の意向に沿いながら互いの関係が切れぬように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	親戚や知人の来訪時には、話やすい場所を提供している。また本人と一緒に、馴染みの理・美容院・店に出かけられるよう支援している。	誰かの家族が毎日のように来訪しているが地域、友人の来訪は少ない。昔馴染みのスーパーでの買い物や美容院等への送迎支援をしている。通院介助の途中に実家周辺に迂回して馴染みの場所の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間については、職員が調整役として中に入ったりする。また、性格の合わない利用者間は、席を工夫するなどしてトラブルが少なくなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。今までの関係を大切にして、家族からの要望があれば終了後も支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で傾聴に心掛け、思いの把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、話題の中で確認するようにしている。	あくまで本人本意の傾聴に心掛けている。言葉や表情から真意を推測したり、会話の中で確認している。得られた情報は日誌に記載し、スタッフ会議で共有してサービスに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族の訪問時等に生活歴や好み、暮らし方を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の状況把握に努め、出来ること、解ることを生かし支援する様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、本人の思いや意見を聞いたり、家族や関係者(医師、訪看)の意見を聞き、会議などで話し合い、本人がより良く暮らすためのケアに生かすようにしている。	日常のモニタリングや医療情報、家族の意見を基本に全職員参加のサービス担当者会議を行い作成する。介護計画は3ヶ月毎及び状態の変化があった時はその都度見直して家族の同意と確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、血圧や体温、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉やエピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や外出時の送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の春祭りや夏祭り等に参加している。地域のイベントにも声掛けがあり出来るだけ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を結ぶように努めている。	利用者7名のうち5名は従来のかかりつけ医を受診している。受診は家族対応だが利用者の重度化が進み、殆んど事業所の支援を必要としている。受診情報は家族から報告があり共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携を結んでおり、週1回の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。緊急時は、電話相談にも応じて貰い、24時間適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病状を把握し、本人の支援方法等に関する情報を医療機関に提供している。また、医療機関や本人・家族と連携をとりながら、早期退院出来るように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の利用者の支援について、職員や訪問と相談しながら、支援の方法・限界について確認している。内容は、家族にも説明し、方針の共有に努めている。	入居時に重度化した場合の支援体制を説明し同意を得ている。看取り介護開始時には文書化した「看取りに関する指針」を文書で説明した後、「看取り介護についての同意書」を利用者家族、医師、訪問看護師、事業所が連名で交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習などの全員受講に努め、備えていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加した。消火・通報訓練を実施し、食糧・備品の備蓄も行っている。	昨年度、事業所の避難訓練は実施していない。緊急通報先、職員連絡先を掲示し、避難場所を設定しているが防災計画は作成していない。地域と事業所が一体となった防災訓練を運営推進会議で討議している。	年2回の避難訓練(内1回は夜間想定)を消防署、近隣住民参加の下で実施することを強く望みたい。地域と一体の防災組織が構築され、実践的な避難訓練が行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけない対応に配慮し、本人の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけとケアに心がけ、自己決定しやすいように努めている。	個人情報保護やプライバシーの確保は研修を通じて職員に浸透している。行動を促す際はキッカケを掴み、やさしく誘導するように心掛けている。個人情報は事務所のキャビネットや机に施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者とは過ごす時間を通して、利用者の希望、関心、嗜好を見極めるように心掛けており、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面を作れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が上がってきているので、本人のサインを読み取り、休息場面を作るなど個別対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は、本人と共に行っている。整髪等に関しては、行動できる人は、馴染みの理美容室に行ってもらっているようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に料理を作ったり、片付けを行っている。また、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。可能な方には、食事の配膳下膳が出来るように支援している。	7名中4名が車椅子利用だが調理・盛り付け・配膳等可能な手助けを行い、全員でテーブルを囲み和やかに食事している。職員も適切な介助の合間に同じ物を摂っている。重度化に伴い外食の頻度は少なくなっている。	工夫して外食の機会が増えることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて、食事量・水分量共に、個々の活動量・摂取量・好みに応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝前には口腔ケアを実施している。必要に応じて、昼食後にも、必要に応じて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本に、本人の生活リズムに添ったさりげない誘導支援をしている。また、失敗しても本人が傷つかないように精神面の配慮や周囲にも気を使って対応している。	排泄パターンに拘らず、本人のサインを見逃さず、さりげなくトイレに誘導している。7名全員がリハビリパンツ着用だが5名の利用者はトイレでの排泄の頻度が多くなり表情が明るくなって来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給や乳製品の飲用、繊維質の摂取および運動を促している。便秘や下痢になった場合、医師と相談し、下剤・整腸剤等で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めて行っているが、状況により、いつでも対応できるようにしている。	火・水・金・土曜日の午後に入浴日を設定しているが利用者の希望で何時でも入浴可能である。入浴を嫌がる利用者はなく、個々に好みのシャンプーを使用して入浴を楽しんでいる。シャワーや足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や表情、希望を考慮し、午前・午後と居室で休んでもらったりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録及び連絡帳には必ず目を通し、会議で伝達し薬の準備・配薬は別の職員が行い、間違いがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	キッチンの手伝い、洗濯干し・片付け等それぞれに合ったことを出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や祭り・お盆・正月など時期に合わせてた外出や本人の希望に応じ、散歩・買い物・理美容の為の外出も支援している。また、良い天気には外気浴を楽しんでいる。	天気の良い時は敷地内を散歩したり、ベンチで外気浴を楽しんでいる。本人の希望で買い物や理・美容の送迎支援、季節毎のイベントや家族との外出も支援している。介護車のピストン稼働で普段出来ない遠出のお花見を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の買い物は、事業所の立替で行うようにして現金を所持しない形をとっているが、本人の希望がある場合、ご家族と相談して少額所持して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、希望されたら電話や手紙などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁面に季節を表現したり季節感を感じて貰える様努めている。トイレの流し忘れや汚れ、臭いが残らないように確認を怠らず、気持ちよく利用できるように努めている。	居間兼食堂は大きな梁がむき出しの吹き抜けで天窓から陽が差し込み明るい。広い窓からの眺めは季節が感じられる。床暖房も設備され、空調も心地良く穏かにゆったりと過ごせる居心地良い空間となっている。トイレや浴室も清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、ホールにも大きなソファがあり、一人で過ごせる居場所や仲の良い人と会話出来る場所もある。また、戸外にもベンチがあり気分転換も図れる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたベットや布団、家族の写真などを置き、毎朝の掃除を行い居心地良く過ごせる工夫をしている。	空調とクローゼットが備え付けられている洋室が基本で利用者は畳を敷いたり、ベッド、思い出の物を持ち込み本人の好みに居心地良く過ごせる工夫をしている。テレビや仏壇、家族の写真等を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に生活できる様、廊下や居室に手すりを設置。居室やトイレ等、場所が分かる表示をしたりして自立に向け支援している。食堂のイスとテーブルを安全性の高いものにしてしている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	避難訓練の実施が出来ていない	避難訓練を年2回実施する	6ヶ月に1回実施を目安にして訓練実施を行う	12ヶ月
2	13	避難訓練の実施が出来ていない	夜間想定訓練の実施	机上にて想定される問題を、職員と相談しながら上げていき、課題の共有と避難行動をまとめる。	12ヶ月
3	15	工夫して外食が出来るように支援する	外食の機会を作る	重度な方の外食支援について検討し、外食出来る場所や人員など支援出来る体制を工夫する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。